

## 株式会社 Synspective とのシンジケートローン契約の締結について

ー金融機関と連携したディープテック・スタートアップ企業へのリスクマネー供給ー

株式会社みずほ銀行（頭取：加藤 勝彦、以下「みずほ銀行」）は、本日、アレンジャーとして、株式会社Synspective（代表取締役CEO：新井 元行、以下「Synspective社」）と、総額81億円のシンジケーション方式によるコミットメント期間付きタームローン<sup>※1</sup>契約（以下「本契約」）を締結しました。みずほ銀行は、他の金融機関とも連携し、将来の産業創出を担うディープテック・スタートアップ<sup>※2</sup>の持続的な成長に貢献すべく、デット調達ニーズへの対応力を強化していきます。

Synspective 社は、昼夜を問わず地球観測を可能とする独自の合成開口レーダー（Synthetic Aperture Radar、以下「SAR」）衛星を開発・運用し、SAR データの販売と衛星データを利用した解析ソリューションを提供しています。

2020年代後半までに30機の小型SAR衛星コンステレーションを構築し、地球上のあらゆる場所の変化を観測できる新しいインフラの創造をめざしており、本件資金は、その取り組みに充当されます。高頻度・高解像度の地球観測を可能にするSAR衛星を活用することで、災害対応、都市計画、インフラ管理、環境アセスメント等をはじめとする地球規模の課題に対して、専門性を持つパートナーとともにソリューションの開発・実装を行います。

革新的な技術やサービスの社会実装へ中長期にわたり挑戦するグロース期のスタートアップにとって、厳しいエクイティ環境が継続する中、十分な成長期間の確保に向けたデット調達の重要性が高まっています。

みずほ銀行は、宇宙領域やエネルギー領域など、次世代の産業創出と社会課題解決が期待されるディープテック企業へのリスクマネー供給強化に向け、業界ごとに有するリスク特性や事業性の評価軸を明確化し、深度ある与信検討を行う態勢を強化してきました。今回、当該評価軸等を他の金融機関とも共有し、賛同を頂いた金融機関と密に連携を進めたことで、本契約に至りました。

引き続き、大企業やベンチャーキャピタル、金融機関など様々なステークホルダーとの連携を強化しながら、マーケット動向に左右されない安定した資金供給と成長支援を推進していきます。

〈みずほ〉は、現中期経営計画において、「日本企業の競争力強化」「サステナビリティ&イノベーション」を注力ビジネステーマとして設定しています。今後も、パーパス「ともに挑む。ともに実る。」のもと、新しい事業や挑戦するスタートアップとともに、「サステナブルな社会・経済」の実現、スタートアップエコシステムの発展に貢献していきます。

【本契約の概要】

融資金額	総額 81 億円
契約締結日	2025 年 2 月 20 日
実行予定日	2025 年 2 月 28 日
期 間	5 年 8 ヶ月
契約形態	コミットメント期間付きタームローン契約
融資金融機関（シンジケート方式）	
アレンジャー	株式会社みずほ銀行
コ・アレンジャー	株式会社静岡銀行
参加行	株式会社商工組合中央金庫 株式会社りそな銀行 三井住友信託銀行株式会社 株式会社あおぞら銀行 株式会社紀陽銀行 株式会社山梨中央銀行 株式会社西日本シティ銀行 株式会社広島銀行 株式会社滋賀銀行

※1 コミットメント期間付きタームローン

予め定めた一定期間（コミットメント期間）において、融資限度額や契約期間の範囲内で一定の要件を満たすことを条件に、契約金融機関によって融資の実行が確約（コミット）された融資枠付きの証書貸付。コミットメント期間終了後は、コミットメント期間に借入した金額を一本化し、通常の長期借入へ移行

※2 ディープテック・スタートアップ

特定の自然科学分野での研究を通じて得られた科学的な発見に基づく技術の事業化・社会実装の実現を通じて、国や世界全体で解決すべき経済社会課題の解決など、社会にインパクトを与えられるような潜在力を有するスタートアップ企業

以 上